

## COVID-19 影響下における子ども食堂の継続要因と役割の変化

東京都府中市内の子ども食堂を対象として

Continuance Factors and Changing Roles of Children's Cafeterias under the Impact of COVID-19 :

A Study of Children's Cafeterias in Fuchu City, Tokyo

37-206155 岡本亮太

This study focused on participant observation of "Factors for Continuation of Children's Cafeterias under the Impact of COVID-19 and Changes in Their Roles" in Fuchu City, Tokyo. The main reason for the continuation of the cafeteria was the change in activities while maintaining the axis of "exchange and food. The change in the role of the cafeteria was the increase in the welfare role of "noticing" users with problems and connecting them to appropriate institutions.

### 1章 はじめに

#### 1-1 研究の背景

近年「子ども食堂」という活動が急速に高まりを見せている。子ども食堂という単語は厳密に定義されていないが、「地域のボランティアが子どもたちに対し、無料もしくは安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供する取り組みを行う場所」とされる。<sup>1</sup> その子ども食堂の形態は多様だ。活動頻度としては月1度から毎日開催する団体もあるし、開催時間も週末の日中や平日の夜など多岐に渡っている。利用者も子どもだけでなく高齢者など誰でも参加できるオープン型や特定の子どもを対象にするクローズ型もある。担い手も子育て世代からシニア世代、学生、単身者など幅広い。また形態としても任意の団体、NPO、個人、一般社団法人と様々である。COVID-19 影響下は様々な活動が休止され個々人が居場所を失う一方で、子ども食堂は 2020 年から 2021 年において約 1000 箇所の増加がみられただけでなく活動継続率も 8 割と非常に高いと言える。社会全体として社会的な活動が休止する中で、その活動を継続した子ども食堂は利用者にとってのサードプレイスとして貴重な存在であっただろう。一方で今回の COVID19 影響下では人と人の交流が制限された。このような制限下のなか、交流を活動の軸とすると子ども食堂の役割はどのような変化があったのだろうか。またどのような要因の元活動を継続できたのであろうか。

#### 1-2 研究の目的

以上の背景から本研究では、COVID19 影響下の府中市における

1.子ども食堂の運営継続プロセスについて

2.子ども食堂に関わる主体間の関係性の変化、そしてその変化が翻って利用者にどのような意味を持つのかを明らかにする。

これを通じて、

- a.コロナ禍における子ども食堂の活動を支えた要因
  - b.子ども食堂が地域の利用者に果たした役割
- の 2 点について示唆を得ることを目的とする。

#### 1-3 対象地の選定

研究では、都市郊外に位置する東京都府中市内の 9 つ全ての子ども食堂を対象とする。

以下の視点から対象地を取り上げる。

1.都市部において黎明期から継続して活動している子ども食堂があること

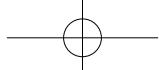
本研究では、COVID-19 影響下の子ども食堂の継続要因並びに子ども食堂の果たした役割の変化について明らかにすることを狙いとしているため、COVID-19 影響以前に継続して活動をしていた子ども食堂を対象とする必要がある。府中市内の子ども食堂は、黎明期である 2016 年から継続して運営される子ども食堂が存在し、かつ全ての子ども食堂が 2022 年時点で 2 年以上継続して活動をしている。

2.全国の子ども食堂の 39%が COVID-19 影響下において活動を休止したが、そのような社会状況のなか活動を継続した子ども食堂であること。COVID-19 影響下における役割と継続要因を明らかにするため市内全ての子ども食堂が継続を続けた府中市内の子ども食堂を対象とする。

#### 1-4 既往研究整理

子ども食堂の研究は当初は実践報告も多かったが、子ども食堂の意義や活動が広がる背景、実践者による子

Ryota Okamoto



ども食堂の効果の評価、「地域共生社会」実現の際の子ども食堂の役割、食事提供の現状、子ども食堂に対する小中学生の保護者の認識などさまざまな視点で子ども食堂を捉える試みがなされている。<sup>2,3,4</sup>一方でCOVID-19影響下においては事例報告がいくつかあるのみであり、その影響を踏まえた継続要因、役割についての述べられているものは見られない。COVID-19影響下における子ども食堂の継続要因、役割に対して利用者の空間における行動に着眼した点に本研究の新規性が見いだされる。

### 1-5 研究手法

第2章では子ども食堂に関する先行研究を中心に、自治体のHPや自ら発信をしている子ども食堂の記事などからCOVID19影響以前の子ども食堂について整理する。第3章では主に厚生労働省が発表した新型コロナウイルス感染症流行化における子ども食堂の運営実態の把握とその効果の検証のための研究、むすびえが調査・発表した子ども食堂の現状&困りごとアンケート調査を中心に文献調査から整理する。

第4、5、6章は府中市内の子ども食堂への参与観察、運営者やボランティアスタッフへのインタビュー調査、アンケート調査からCOVID19影響下の運営実態や活動の変化を明らかにする。

## 2章子ども食堂の概観

### 2-1 子ども食堂の箇所数

むすびえの調査によると、全国の子ども食堂は3700箇所を超えてることが明らかとなった。また増加率で見てみると全国平均では80.3%である。そして子ども食堂の認知度について全国1万人を対象に意識調査を行った結果、子ども食堂の認知度は82.1%であり2018年の調査と比べて10%程度上昇していることが明らかとなった。

### 2-2 貧困対策としての子ども食堂

大西は、「子どもの貧困」に対策としては、その世帯の所得をあげるような施策（を公的に整えていく必要があり、その子どもに対しても教育の機会が得られるような仕組みが構築していくことが求められるとし、これは子ども食堂で解決できる問題でない。と述べる。大西らが述べるように、子ども食堂は経済的な面における役割は小さい。月に数回開催の子ども食堂は直接的な経済的支援はできない。

一方七星は、子ども食堂は保護者が貧困であることによる子どもの権利について、地域の人々が関わることで、「子どもの社会的な育ち、栄養があり豊かな食事、遊び、余暇や文化的活動、学習資源へのアクセス」と

いった活動を提供している、と述べる。

このように子ども食堂は経済的な貧困ではなく、心の貧困問題に取り組んでいると言えるだろう。

### 3章 COVID-19影響下における子ども食堂の全国的動向

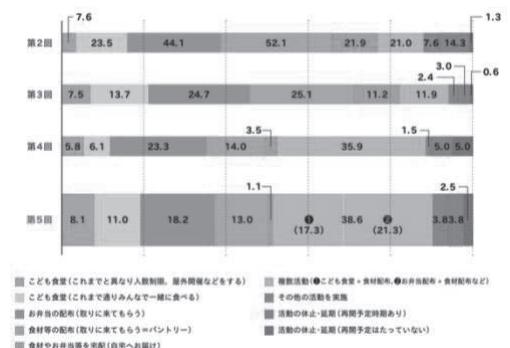
#### 3-1 増加し続けた子ども食堂

COVID-19影響下であった2020年から2021年にかけて全国の子ども食堂は1047箇所増加した。2020年から2021年はCOVID-19の流行があったが、2019-2020年と概ね同数の増加数となったことが明らかとなった。また都道府県別の箇所数については、箇所数最多は東京都747箇所、2番目に多いのは大阪府470箇所、3番目に多いのは兵庫県373箇所であった。<sup>5</sup>

#### 3-2 開催状況と活動変化

アンケートによれば2021年12月時点においてCOVID-19の影響によって活動内容を変化させたと回答が全体の57.6%、無いと回答したのが37.9%であった。活動内容の変化としては食という根本を変えずに人数制限や屋外の利用、パントリーなどの食材配布が92.3%であった。そのように活動を縮小していく方向性となった結果として参加者自体の変化が見られたとの報告もあり全体の58.3%が変化したと回答した。

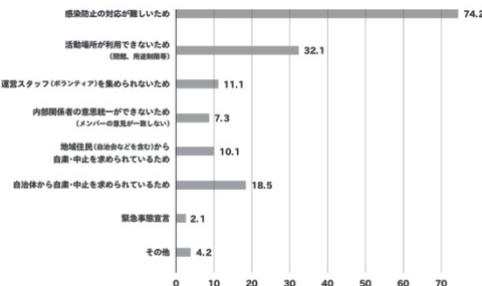
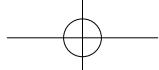
図1 全国の子ども食堂における活動内容の変化



#### 3-3 継続を困難とした要因

一方2020年の4月にはむすびえのアンケートによると全国の子ども食堂の39%が活動を休止した。その理由として挙げられるのは感染対策が難しいためが74.2%突出する。また行政や地域との連携、場の不足、スタッフの確保に課題を感じていることがアンケートから明らかになった。

図2 全国の子ども食堂における継続を困難とする要因



## 4章 府中市内の子ども食堂の概観

### 4-1 府中市内の子ども食堂の開催動機

#### (1) 子どもの居場所作り@府中

2016年4月に子どもの居場所作り@府中は府中市初の子ども食堂としてスタートした。元から関心があった子どもの貧困問題が身近にあることを栗林さんが代表を務めた「広がれ、子ども食堂の輪！全国ツアー」にて詳しく知ったことが活動を始めるきっかけであった。

#### (2) あおば子どもの居場所

2016年の8月から那須さんを代表として子ども食堂を開催、9月からは学習支援も開始した。子ども食堂を開催した動機としては孤食の子どもを減らし大人と一緒に料理を作る過程をみながら温かい食事を取る。また食事だけでなく様々な文化的体験をし、多世代の交流することとしている。民生委員の活動の見守りの際に子どもの中に夏休みになると食事の回数が減る子どもの存在を知ったことを契機に貧困問題を自分ごとのように考えるようになった。その想いからお腹を減らした子どもを減らしたいと子ども食堂の活動を始めた。

#### (3) いっちゃん家わくわく子ども食堂

2018年8月に西埜さんを代表として子ども食堂を開催した。開催の思いとしては、貧困だけでなく、子どもたちが学校と家だけではない、第3の居場所を作りたいという思いがある。子ども食堂の基本的に月1回の活動で、利用者は子育て世帯が近隣から集まることが多い。

#### (4) グレイスキッキン

過去に堀井さん自身が自分の居場所を作ることに苦労した経験から、居場所作りを志向するようになった。グレイスキッキンは月に一回の子ども食堂の活動を行っている。利用者は白糸台地区を中心に近隣の方が20名前後で多いときは40名を超える。

#### (5) 新町子どもカレー食堂

2018年8月に木村さんを代表として新町子どもカレー

ー食堂は開始した。住宅地でありながらも子どもの姿が見えなくなったことや子どもの貧困問題に関心が子ども食堂を主催する動機となる。基本的に月に1回の子ども食堂の活動をしている。利用者は新町からの利用者が突出している。そのため徒歩や自転車での来訪が多い。

#### (6) にっころ食堂

2019年11月に目時さんを代表として子ども食堂の活動が始まった。テレビの特番などを通して子ども食堂の活動を知った目時さんは卒園児が遊びに来てくれる様子を見て子どもたちの居場所作りをできないかと考えていた。月に一回の子ども食堂の活動を軸に活動している。利用者は主に新町や四谷町からでほとんどを占める。

#### (7) ひがしふちゅう駅前こども食堂

2018年6月から林さんを代表として子ども食堂活動を開始した。地域活動に携わる中で、地域の繋がりが薄れてきていることを感じていた。高齢化や核家族化は進み、子どもたちはやや淋しい思いをしている状況に加えて、貧困状態にもなっていることに課題を感じ、地域に賑やかで繋がりを感じられる場所を作りたいという想いを元に活動に取り組むこととなった月に一度の子ども食堂の活動を軸に活動している。

#### (8) みんなの食堂

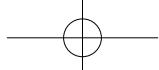
2019年5月から藤田さんを代表としてみんなの食堂の活動は始まった。近年の子どもにまつわる事件から子どもの貧困問題に关心をもっていた藤田さんは、自分たちの住むまちに自分の居場所を感じる人を増やしたい、孤独を感じる人をなくしたいと子ども食堂を開始した。一同に介する食事が基本的な形態であった。他の子ども食堂と違い母子(親)ごと支援を志向していること、活動時間が夕方になることから保護者の帯同を基本としていた。そのため子どもだけの利用がないという特徴がある。

(9) ラメンサデリ・アンジェリ・この指と一まれ教会の神父であるアンドレアさんが地域に子どもたちの居場所を作りたいという想いで活動を開始した。基本的に月1度の子ども食堂の活動をしている。利用者は近隣のかたが多く、徒歩や自転車での来訪が基本である。一回の子ども食堂では約40名程度の利用があった。教会での開催ということもあり、利用者的心の安寧を目的に活動が行われていた。

## 5章 COVID-19影響下における活動変化

### 5-1 各食堂の活動変化

#### (1) 子どもの居場所作り@府中



子どもの居場所作り@府中は COVID-19 影響を受け、一同に介する食事を 2020 年 3 月～7 月に活動を休止した。それ以降は継続して活動し、利用者は一回あたり 20～30 名程度である。一方食事を休止する一方で 3 月から食材配布（以下パントリー）を月に 1 回開始した。また同年 8 月から学習支援と弁当配布を同様に月に一回開催し、パンを配布するフードドライブも開始した。

#### (2) あおば子どもの居場所

2016 年から続いている一同に介する食事形式の活動は 2020 年 4 月から 2021 年 11 月まで休止した。COVID-19 の影響が沈静化してきた 12 月は開催予定とする。一同に介する食事の代替としてパントリーを 2020 年 4 月から開始し 2022 年 1 月現在まで毎月 1 回開催している。一方 2016 年から継続してきた学習支援については 2020 年 3 月～5 月のみの休止とし、それ以降は 2022 年 1 月現在に至るまで活動を継続している。

#### (3) いっちゃん家わくわく子ども食堂

いっちゃん家わくわく子ども食堂は一同に介する食事形式の子ども食堂を 2020 年 4 月から現在まで活動を休止している。一方活動を休止した 2020 年 4 月から活動をパントリーとしており、現在まで継続している。特に 2020 年の小学生の夏期休暇にあたる 8 月は毎日のお弁当配布を開催した。また 2020 年 8 月から 3 月までは週 3 回の弁当配布を行った。利用者の数は子ども食堂時代が 20 名程度であったがパントリーに活動を変化させてから 60 名程度に增加了。

#### (4) グレイスキッキン

グレイスキッキンは 2017 年の 6 月から一同に介する食事形式の子ども食堂を開催していたが、2020 年 3 月から 2021 年の 10 月まで開催を休止していた。11 月からは再開し、現在に至る。一方パントリー活動を 5 月から現在まで毎月行っている。利用者は 20 名前後で一同に介する形式の頃と比較すると半分程度である。

#### (5) 新町子どもカレー食堂

新町子どもカレー食堂は 2018 年から毎月行ってきた一同に介する食事形式を 2020 年 4 月に休止し現在まで再開していない。活動を 1 ヶ月休止した後 5 月からパントリーの活動を開催した。利用者は約 20 人前後であった。また学習支援を 2021 年の 9 月から開始した。パントリーの活動を通して地域に困窮する子どもが多いことを実感したことを契機に開催した。週に 2 回大学生のボランティアと共にに行う。

#### (6) にっころ食堂

にっころ食堂は 2019 年 11 月に初めての一同に介する形式の子ども食堂を開催したがその後 COVID-19 が流行したため、2020 年の 2 月以降休止している。2020 年の 9 月にパントリーを開始し現在まで毎月継続している。

#### (7) ひがしふちゅう駅前こども食堂

ひがしふちゅう駅前こども食堂は 2018 年 6 月に一同に介する食事形式の子ども食堂を開催していたが、2020 年 3 月から 2021 年 10 月まで休止していた。2020 年 4 月から隔月でパントリーを現在まで行っている。スタッフの多くは一同に介する食事形式の子ども食堂の開催を望んでいること、高齢者のスタッフが多いため大量の食材を扱うことに難があることから隔月とした。

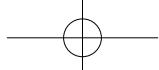
#### (8) みんなの食堂

2019 年 5 月から現在に至るまで一同に介する食事形式を継続して行ってきた。しかし COVID-19 の影響を主要因として 2019 年度末まで使用していた公会堂が使用不可となった。そのため 4～6 月は近隣のすずかけ公園にて府中市の緑地課の許可を得て屋外開催をした。また 7 月以降からは駅前にあるプラットにて開催し現在に至る。またパントリー活動を 2020 年の 5 月から 3 月まで府中教会にて開催。2021 年の 4～6 月はすずかけ公園にて行い、それ以降は隔月に coop の会議室にて開催している。その中でお弁当の会を限られた困窮層の方に向けて不定期開催している。パントリーの利用者は数を 20 人としている。

(9) ラメンサデリ・アンジェリ・この指と一まれ  
ラメンサデリ・アンジェリ・この指と一まれは 2018 年 9 月から一同に介する食事形式の子ども食堂の活動を開催していたが、COVID-19 の影響により、2020 年 3, 4 月の活動を休止した。しかしそれ以降は継続して一同に介する形式の子ども食堂を現在まで開催している。食事をともにする形式を休止した 3, 4 月はその代替としてパントリーを行った。

#### 5-2 活動変化を支えた子ども食堂同士の連携

COVID-19 の影響を受け、活動がパントリーへと変化したため、「食材の保管場所の共有、多くもらった寄付を分け合う。補助金のノウハウを教え合う。パントリーと食堂の利用者を共通にし、出来ない活動を互いに補い合う」などの以前はなかった連携がみられるようになった。この連携から限られた資源を有効に利用者へと届けたいという思いから、重複しての受給を防止し、その施策として統一のフォームを作成した。また



行政と連絡を取り合い、母子家庭や生活困窮層、就学支援を受けている人などを対象に一斉メールにて告知することに決まった。2020 年度までは子ども食堂の活動は民間のボランティアが行っているため個人情報の開示などに市側は積極的ではなかったが、このように市側の対応が変化したのは、各子ども食堂が各自で要望を出すのではなく、府中市内の子ども食堂全体の意見であるとの総意が取れた状態であったことが大きな要因であったと代表者は述べる。

## 6 章 COVID-19 の影響による利用者・利用特性の変化

### 6-1 利用者の変遷と交流密度の変化

活動タイプから代表事例 3 つを挙げて詳細を述べる。

#### (1) 食事、食材配布、学習支援の 3 つの活動

利用者数が約 100 名から約 20 名と減少し、スタッフとの交流が密となった。また継続率は 6 割から 9 割へと変化。利用者来訪範囲が近隣から若干拡大したスタッフから利用者に質問をする時間が増え、参与観察では子どもが学校の悩みについて、保護者が子どもの進路や子育てに関する悩み相談をしている様子が確認できた。運営者は COVID-19 影響下において利用者との距離が縮まり、初めて利用者の顔と名前が一致したと述べる。

気にかかる子を発見したときの対応としては、食材配布にて直接家庭に行く、意識して話を多く聞く、民生委員や行政へ繋げるが主であった。また小学校や社会福祉協議会からの紹介で利用する家庭も増加した。

#### (2) 食事、食材配布のみ

利用者数が約 40 名から約 15 名と減少し、スタッフとの交流が密となった。また継続率は 7 割から 9 割へと変化し、利用者来訪範囲が近隣から若干拡大した。またスタッフから利用者に質問をする時間が増え、参与観察では子どもが学校の悩みについて、保護者が経済的な悩みを相談している様子が確認できた。

運営者は COVID-19 影響下において利用者との距離が縮まり、初めて家庭環境や学校での様子などを認識している。気にかかる子を発見したときの対応としては、民生委員へ繋げることが主であった。

#### (3) 食材配布のみ

利用者数が約 80 名から約 20 名と減少し、スタッフとの交流が密となった。また継続率は 6 割から 9 割へと変化し、利用者来訪範囲が近隣から拡大した。スタッフから利用者に質問をする時間が増え、参与観察では保護者が経済的な悩みや子どもの進路、再就職について相談している様子が確認できた。運営者は COVID-19 影響下において利用者との距離が縮まり、初めて

家庭環境や学校での様子などを認識している。気にかかる子を発見したときの対応としては、対象の方を行政や民生委員へ繋げることが主であった。

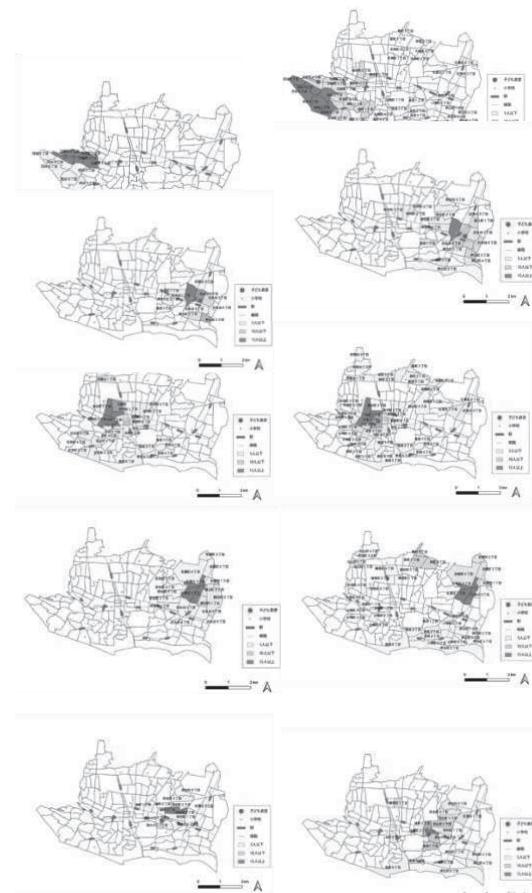


図 3 府中市内の子ども食堂利用者の変遷

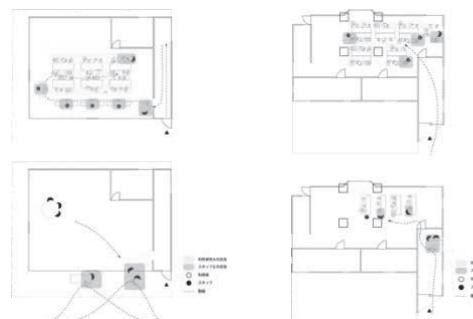
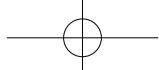


図 4 子ども食堂利用者の施設内行動の変化

### 6-2 気づき、繋げる役割

COVID-19 影響下において利用者にどのような変化が



あったかという問い合わせに対して運営者全員が回答していたこととして府中市内にこれほど困窮している方がいるとは以前までの活動では気づいていなかったと言う。活動の変化後は、対個人の交流が増え、特に保護者との交流も増えたことでより内実を知るようになった。これは信頼関係を根底に、地域の方でかつ他人もあるからこそ悩みや相談を打ち明けやすいという構造があるのだろう。このようにして子ども食堂のスタッフは利用者の問題を認知するようになった。一方子ども食堂のスタッフは一民間人である。そのため具体的な解決策が打てるわけではない。そのため運営者を筆頭に問題が大きいと判断した利用者を行政や社会福祉協議会、民生委員など福祉的な専門性をもつ機関へ繋げるという活動が行われるようになった。

虐待を受けていた家庭を行政につなぐ、家庭内の不和から課題を抱える子を子育てセンターへつなぐ、市内であるが遠方である家庭を、近くに住む民生委員に知らせるなど様々な、繋げるという活動を行っている。このように子ども食堂は COVID-19 影響下において気づくという機能を高め、それを改善へと向かう機関へ繋げる役割を果たした。

## 7章結論

### 7-1 子ども食堂の活動を可能にした一要因

子ども食堂が活動を可能にした要因は、利用者同士の距離が近く大勢が一同に介する食事形態の活動から利用者同士の関わりが少ない活動へと変化させたことを主要因とする。またそれを支えるために子ども食堂同士が連携を強化、府中市との協力関係の構築、場の継続的な確保、運営資金の確保、むすびえからの情報提供が同時に生じた。

### 7-2 COVID-19 影響下における子ども食堂の役割

子ども食堂が利用者に果たした役割は、顕在化した困窮層に対してのアウトリーチによる課題発見と適切なつながりの提供である。COVID-19 影響下において利用者は交流の質の変化から集団のなかでスタッフに課題を気づかれる関係から個人間でのやり取りの中で課題を表明することができるようになった。今までの一同に介する子ども食堂の形式では子どもはスタッフから課題を一方的に気づかれるのを待つ状態であった。しかし COVID-19 影響で活動が変化し呼応流の質が変化したこと、子どもに尋ねる回数が増えたこと、保護者の来訪が増え子どもからだけでなく親

からも家庭の様子が伺えるようになったこと、フードドライブなどにより来訪してもらうだけでなく家庭に出向くことも増え、家の様子という違った側面を見るができるようになったことで今まで以上にアウトリーチによる課題発見が可能となった。また対個人の交流が増えたことは、信頼関係を以前よりも芽生えさせ、悩みを打ち明けやすく成るという相乗効果もあった。

### 7-3 今後の子ども食堂運営に対する示唆

一般的に世間の子ども食堂への認知は困窮層に偏っていると考えられる。そして COVID-19 影響下において特に府中市は困窮層に利用者が偏った。今後 COVID-19 の影響が沈静化していくれば以前のような交流の密度が低い活動となっていくだろう。その際に必要なのは課題を発見するのに必要であると考えられる適正な人数と保護者の誘致である。利用者があまりに多いとスタッフとの交流が起こらず気づくという機能が働きにくくなる。また子どもは基本的に課題を自ら発信することはできない。そのため保護者との交



流も気づきには必要になっていくだろう。

図 5 期待される子ども食堂の形態

## 参考文献

- 1) 黒谷佳代、新杉知沙、千葉剛、山口麻衣、可知悠子、瀧本秀美、近藤尚己, "小・中学校の保護者を対象とした「子ども食堂」に対するインターネット調査"日本公衛誌, 第 66 卷, 第 9 号, pp.593-602, 2019.
- 2) 七星純子, "ケア空間の多元化としての子ども食堂", 千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書, 第 355 集, pp.12-30, 2020.
- 3) 湯浅誠, "子ども食堂の過去・現在・未来", 地域福祉研究, 公 No.7, pp.15-27, 2019.
- 4) 和田悠, "子ども食堂づくり運動の現状と課題", ピープルズ・プラン第 74 卷, pp.79-82, 2016.
- 5) NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえ“子ども食堂全国箇所数調査 2021 結果”12 2021.